［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年 8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	1870400247
法人名	有限会社ケアライフ光
事業所名	グループホーム孫子老
所在地	〒917-0241　福井県小浜市遠敷57-13 （電　話）0770-56-5705

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041　大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年7月31日	評価確定日	平成21年11月2日

【情報提供票より】（平成　21　年　6　月　15　日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17　年　8　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤　7 人，非常勤　2 人，常勤換算　7 人

（2）建物概要

建物構造	木造スレート　造り
	2 階建ての　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	53,000　円		その他の経費（月額）	22,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200　円	昼食	300　円
	夕食	400　円	おやつ	150　円
	または1日当たり　1,050　円			

（4）利用者の概要（　6　月　15　日現在）

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3	名	要介護2	1	名
要介護3	1	名	要介護4	2	名
要介護5	2	名	要支援2	0	名
年齢　平均	82 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人千葉医院、大下第三歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは東小浜駅より少し南側に位置し、山と田んぼに囲まれたのどかな風景の中にあります。リビングを真ん中に左右に居室を配し、明るく眺めの良いリビングには利用者が集い、職員と一緒にお菓子を作ったり、談笑したりしています。近隣の住人の訪問も多く、近所の高齢者や子供を一時預かりを行うこともあり、地域に開かれたホームとなっています。職員は個別での対応を心がけ、利用者の希望するさまざまな外出を支援されています。また管理者が看護師でもあるため、介護、看護両面でのケアが行き届き、重度化や看取りケアについても積極的に対応し、夜勤と宿直の2名体制で見守りをされています。協力医との連携もあり、利用者や家族が安心して暮らせる体制が整っています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の課題でもあった運営推進会議は開催を2カ月毎に定着させ、多くの意見を運営に反映させるなど、出来ることから改善に努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価票は、職員に見てもらい意見を求めましたが意見が少なく、管理者が考え作成されました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は2カ月ごとに、利用者、家族、市職員、地域包括支援センター保健師、民生委員、老人会長、管理者、職員が参加して開催されています。会議ではホームから現状や活動についての報告がなされる他、地域の状況や保健衛生等さまざまな意見が出され、話し合われています。また自己評価や外部評価についての報告もなされています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	日々の訪問時や敬老会やクリスマス会の際、家族も招待し意見を聞いています。玄関に意見箱やアンケートを設置し、書面にも苦情機関の窓口を掲載することで、家族が意見を言いやすいよう配慮しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	日頃から近隣の人が立ち寄られ、野菜を頂いたり、お礼に利用者手作りのおやつをお返ししたりと交流しています。毎月地域のふれあいサロンに参加したり、盆踊りや秋祭りには神輿がホームまで立ち寄ってくれます。また保育園児の訪問を受けたり、近所の高齢者や子供を一時預かりを行うこともあり、地域に開かれたホームとなっています。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に当時の管理者が考え作られた理念を継続し、現在も事業所の理念としている。日々地域との関係性を重視しながら生活しているが、理念として意識し、確認して作成されていない。	○	地域密着型サービスとして、何が大切かを職員間で話し合い、利用者が地域で暮らし続けることを支えるための理念とされることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム玄関に掲げられ、毎朝理念を唱和してからケアに入っている。職員優先ではなく、利用者本位のケアが出来るよう、理念に立ち返り、確認しながら実践に入るよう心がけている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃から近隣の人が立ち寄られ、野菜を頂いたり、お礼に利用者手作りのおやつをおすそ分けしている。毎月地域のふれあいサロンに参加したり、盆踊りや秋祭りには神輿がホームまで立ち寄ってくれる。また保育園児の訪問を受けたり、近所の高齢者や子供を一時預かりを行うこともあり、地域に開かれたホームとなっている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題でもあった運営推進会議は開催を2カ月毎に定着させている。また今回の自己評価票は職員に見せ意見を求めたが、意見はあまり得られず、管理者が考え作成された。	○	自己評価は全員で取り組まれることで、日々のケアを振り返り、気づきや自信をもたらすことが出来る。例えば、自己評価票のコピーを職員に配布し、項目を分担し記入してもらい集約するなど、全員での取り組みが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月ごとに、利用者、家族、市職員、地域包括支援センター保健師、民生委員、老人会長、管理者、職員が参加して開催されている。会議ではホームからの現状や活動についての報告がなされる他、地域の状況や保健衛生等さまざまな意見が出され、話し合われている。また自己評価や外部評価についての報告もされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市関係者の運営推進会議の参加もあり、気軽に相談し合える関係が構築されている。毎回の運営推進会議録の持参や申請時には訪問して、悩みや相談にのってもらっている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、2カ月ごとに便りと一緒に写真を同封し郵送したり、家族の来訪時に報告している。変化があれば、その都度、電話等で報告している。また立て替え金は毎月の請求書を送る際に、収支と領収書を同封し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の訪問時や敬老会、クリスマス会の際、家族も招待し意見を聞いている。玄関に意見箱やアンケートを設置し、書面にも苦情機関の窓口を掲載することで、家族が意見を言いやすいよう配慮している。出された意見については、必要に応じて職員間で相談しながら対処し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	行事の後に職員だけで会食したり、シフトを組む際も職員の都合を優先している。また日々の表情を見て声をかけ、話し合う機会を持つように配慮している。新しい職員には介護主任が付き添い、日勤帯から始めて馴染んでもらうよう配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や習熟度に応じ、実践者研修等に参加したり、市から情報を得て希望を募るなどの取り組みは見られるが、あまり参加できていない。ホーム内でも2カ月に一度、身体拘束等の勉強会を行なっている。近々救急法の研修に参加を予定している。	○	情報の共有を図るため、研修資料はホームに持ち帰り、回覧用に保管され、参加できなかった他の職員に伝達研修を行なう等の機会を確保されることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に加入しているが、会議が遠方で行われるため、勤務体制上なかなか参加できないのが現状である。近隣のホームとの交流を検討中である。	○	職員が見学や交換研修等を通じ他のホームと交流することで、多くの気づきを促し、自信にも繋がる良い機会となる。他の同業者を知り交流する機会を持たれることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来られた際には、ゆっくり時間をかけて過ごしてもらっている。入居後、淋しがる利用者には、職員が慣れるまで一緒の部屋で寄り添うなどの配慮をし、家族の協力や在宅時ののケアマネージャー、主治医に現状確認と情報提供を受けながら徐々に馴染んでもらっている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から調理の仕方や野菜の栽培法等、多くの生活の知恵を教わっている。利用者と一緒に作ったおやつを主治医に届けたり、家族との間に立ち関係性を深めたりと職員がよいクッション材となり利用者の人間関係を保持するための支援をしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化が進み、なかなか思いの表出が出来にくい中、職員は利用者の表情や態度、また家族から情報を得るなど、思いを把握するよう心がけている。職員は毎日利用者担当を変更し、利用者への思いが偏らないようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	面会時を利用して家族の希望を聞き、カンファレンスの時間が確保できない中、昼休みに職員の意見を聞いて回ったり、職員の気づきや思いが書かれた申し送りノートをもとにケアプランを作成している。必要に応じ、主治医の意見を聞き、ケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは毎月モニタリングされ、利用者・家族の意見を聞き、6か月ごとに見直し、更新している。昼休みを利用して話し合いがなされているが、全員の意見が反映されず、評価やカンファレンス記録も残されていない。	○	月に一度は職員全体で話し合う機会を確保し、カンファレンスも定期化され、会議録を残され出席できない職員にもその内容が共有できるよう取り組まれることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	全ての利用者の通院介助や希望による馴染みの理美容院、喫茶店、スナックへの外出、嗜好品の買い物等の支援をしている。また家族の希望により孫の結婚写真の前撮りへの出席の支援や近所の高齢者や子供を一時預かりを行うこともあり地域への支援も行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に話し合い、待合が困難な利用者以外は以前からのかかりつけ医を継続してもらい、職員が通院介助をしている。ホーム医は2週間毎の往診があり、歯科も必要時に通院している。ホーム医とは24時間連絡可能で、管理者が看護師であり、日々の健康管理体制が整えられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームではこれまでに看取りの経験もあり、重度化した場合は家族に希望を聞き、主治医の協力を得ながら利用者にとっての最良の方法を検討している。職員間でも方針を共有し、夜間は夜勤と宿直の2名体制で利用者の見守りを行なっている。ホームにおける看取り指針を作成し、今後は入居時に交わす予定である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉づかいには注意し、子供扱いするような言い方はせず、目線を合わせて声かけするよう心がけている。入浴時も利用者同士が浴室で重なることがないよう配慮している。また個人のファイル等の個人情報は事務所のロッカーに鍵をかけて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝も個々の利用者ごとに違い、職員は利用者が好きな事やしたいことが出来るように支援している。常に1番を希望する利用者には食事を他の利用者より早く取ってもらったり、クイズの好きな方にはクイズ形式の学習療法で楽しんでもらっている。		「1番でないと気が済まない」という表現は利用者に失礼ではないでしょうか？ うまく直して頂き、ありがとうございます。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでは調理担当の職員を配置し、調理担当職員は利用者に希望を聞きながら献立を立てている。利用者は下ごしらえや調理、片付け等を一緒に行い、同じテーブルで会話を楽しみながら食事を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回午後からの入浴で、好きな順番に入浴されている。希望があれば毎日の入浴や午前中にシャワー浴ができるように支援している。季節によっては近隣からたくさんゆずが届き、ゆず湯を楽しまれている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活に張り合いを持ってもらうため、利用者に洗面所を磨いてもらったり、食器拭き、各居室のゴミ集め等をしてもらっている。またおしぼり巻きや、カレンダーめくりをしてもらい、その紙で折り鶴を折る等、リハビリを兼ね、楽しみながら役立つ喜びを味わってもらっている。職員は楽しむことの大切さを認識し、一緒におやつを作ったりスナックに飲みにいくなどの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外に出かける機会を作っており、散歩で近くのお寺に出かけ、お参りしたり鯉を見たりしている。喫茶店や買い物に出かけ、葛饅頭やかき氷を食べに出かける予定をしている。また家族を誘ってのお花見やイベント等にも出かける支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることが身体拘束であると理解し、日中は鍵をかけないケアを実践している。外に出たいときは出てもらい、後から職員が付き添い見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1度は消防署の指導を受け、避難訓練を実施している。また毎月、職員だけで自主訓練を開催し、3人1チームとなり、役割分担し取り組んでいる。今後は地域にも協力を働きかけていく予定である。	○	ホームの課題でもある地域の参加については、運営推進会議で議題にあげ地域に働きかけたり、地域の消防団に声をかけるなどの取り組みが期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎回記録に残し、水分摂取は1日1500mlを見安に水分補給を勧め、摂取が進まない利用者にはスポーツ飲料等で補給している。また食事形態も粥にしたり刻んだりして提供し、病状や状況などに応じた支援をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの真ん中にリビングを配し、左右に居室を設け、床は危なくないように全てカーペットを敷きつめている。玄関に花を植え、テーブルの花や観葉植物を飾り、利用者は周りの景色と共に季節感を感じながら生活することが出来ている。また和室を設け、隅にソファーを置くことで、寛ぎの空間が生まれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシ―に配慮して各居室は名前を貼らず、花の名前を付け、居室ごとに違う壁紙を貼り、自室を解りやすくしている。利用者は自宅よりタンスやテレビ、冷蔵庫、家族の写真等を持参され、居心地良く過ごされている。希望があれば、畳を敷いて布団で休むこともできる。		